

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290700150		
法人名	有限会社 三河接骨		
事業所名	グループホームやわら		
所在地	千葉県銚子市後飯町3-18		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成28年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所も来年4月をもって満3年になります。この事業所のスタッフは年齢や国籍なども異なりますが、職員の一人ひとりが、利用者様ご家族のそれぞれの思い実情に照らし合わせ、真剣に真面目に取り組んでんでいます。施設での生活が健やかで、穏やかな気持ちで毎日を過ごして頂けるように努め、ご家族の心の負担を軽減することができるよう、支援を心がけています。バランスの摂れた食事も美味しく、利用者様にできた食事を提供しています。職員が利用者様に美味しく食べて頂けるよう心をこめて作っています。懐かしい曲にのって笑顔でリハビリ体操、また、歯科医師の指導のもと口腔ケア等に力を入れています。

グループホームでは一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保により居心地よく過ごせる居室の配慮、日ごろのなじみの物を置くことにより、安心して過ごすことが心地よいとされています。そのうえに、入浴・食事・排泄等の介助を職員全員で支援しています。職員は、雰囲気や良く持っていき、温かさ心地よくすることを支援しています。基本理念とは別に各事業所用に小さな目標として職員全員で作ることも職員同士の共有ができ、ますます親近感が持てるようになると思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「なじみの町で共に生きる」を理念に掲げ一人、ひとりの主体性を尊重しその人らしい生活を送れるよう管理者、職員等はその理念を共有し実践に努めている。	月1回職員会議が開かれ会議記録もある。理念が玄関を入ったホールに掲げられてあり、職員等で共有している。	管理者が今年交代となり、コミュニケーションを取って行くことも難しいが、理念の共有を取って行くためにも、朝礼時に全員で理念を唱和することから始めるとを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の中で暮らし続けられるよう事業所、職員一同が地域の一員の一人として少しずつではあるが、交流につなげる努力をはしている。	日常的に交流はされていないが職場体験を通して地元の子供たち・保育所の幼児たちが来たり、市のお祭りに見学に行ったり地域に出て少しずつ交流を図っている。	町内会に加入しているが回覧板は回って来ていないので、地域との交流に取り組んで行く事に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所、職員の努力により、舞踊、紙芝居、園児達の訪問等増す中、地域の皆様にとの様な貢献ができるのか、模索しながら、少しずつではあるが実践につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、サービスの実際、評価への取り組み、意見等、戴くことでサービスの向上につなげ、活かしてる。	事業所が出来て3年目だが運営推進会議では、前回会議の課題について原因を確認しサービスの向上に活かしている。	参加されていない家族にも、運営推進会議の記録等を送付され、興味をもってもらう事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修参加。高齢者福祉課や地域包括センターの協力を得ている。課題解決に向けての指導を受けたり、積極的に協力関係を築けるよう努めている。	市町村との話し合いに積極的に参加し、協力関係が築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの是非は代表者、全て職員が理解しており、施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを全ての職員は理解している。が、出入り口玄関前は、交通量も多く施錠されている。利用者が出かけたと言った時は、職員が付いて出かけるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は徹底している、また職員全員が絶対にしてはいけないことと理解している。施設内研修も実施。実践につなげている。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解している職員は少ない。だが事業所では実践、包括、日常生活支援事業所の協力を受け支援につなげている。事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明は行っている。利用者、ご家族様の不安や疑問等がないか、確認し理解、納得いよう説明につとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、手づくりの意見箱の設置、2か月に一度の推進会議の意見等を運営に反映させている。	運営推進会議を大きな機会とし家族の苦情相談、意見を聞いている。	欠席の方には会議の内容を郵送したり、家族をフォローするために食事のメニューを同封されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。毎月、G、H、小規模多機能ホームとも月例会議を実施、反映させている。	毎月のG・H、小規模多機能ホームとの会議を実施している。が、意見、返事を書き留めていない。	現状は、記録としてないので改善しているとしても記録に残すことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し給料水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心をもって働けるよう職場環境、条件の整備に努め心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保、働きながらトレーニングしていくことを心掛け進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括や同業者主催の勉強会等に参加することにより同業者との交流を通じサービスの向上につなげる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話すこと耳を傾け本人の気持ちに寄り添い、不安なこと、困っていること、要望は何かを導き出しながら、安心を確保する為の努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様の意向を尊重しながらもご家族様の思いにも傾聴し、話し合いを重ねていく中で信頼関係の確立に向け努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様が必要としている支援を見極め課題解決に向け対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること疎外せず協力し互いに助け合う関係づくりを続けられるよう、取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力は不可欠であることを職員は認識しており、ご家族様とは密に連絡を取り、気軽に来訪して戴けるよう心掛け努力もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が大切にしてきた、なじみの関係が途切れないよう家に電話をかけたたいと訴えがあれば、直ぐ様ご家族様と話せるよう支援しています。	友人が2週間ごとに遊びにきてくれたり、毎週家族が自宅に連れて帰ったりと今までの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士、良い関係が確保でき、保てるよう、孤立しないよう、職員が心配りし、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人、家族様の相談支援に応じる体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中でその人にとって何を必要としているのか、観察し把握に努め支援につなぐ努力をしている。	一人ひとりの思いや暮らし方への希望等については、家族は協力的である。その方を観察し寄り添う支援に心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、本人様の生活歴、背景、またご家族様来訪時コミュニケーション図の中で生活歴、環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様、一人一人の1日の過ごし方を概ね把握しており、いつもと変わった様子が見られれば、ナース等に報告、また本人のできることは阻害することのなよう見守り、支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすため、本人、ご家族様の思いを聞き取り、また必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画の作成を心掛けている。	個別の介護計画を作成し、見直しもされ同意を得て、現状にそった介護計画を作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、気づき等、個別記録に記載、職員間で情報共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して既存のサービスに捉われない柔軟な支援を心掛けて実践に向けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、資源を活用し利用様が心身ともに健康で、安全な暮らしを営むことができるよう支援に努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受信は、本人、ご家族様のご希望等大切にし、納得が得られたかかりつけ医に適切な医療が受けられる様、時には家族様の協力を得ながら支援いたします。	本人・家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様、入院の際、安心して治療できるよう、また早期に退院できるよう医療機関との連携を図り、病院関係者との関係づくりをこころがけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化場合や終末期のあり方についての話し合いはされていない、どのタイミングで話を持ち出せばよいのか模索しているところである。	重度化や終末期に向けた方針としては、まだ話はされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習は専門講師を招き実践している。また職員の中では役所主催の講習を受けている職員もいるが全て職員が実践力を身に付けてるとは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者避難訓練は年2回消防署指導のもと行っている。地域との協力体制はいまだ出来ていない。模索しているところである。	避難訓練は、年2回行われている。連絡網等は出来ている。	地域を巻き込んだ避難訓練を行い、同時に非常食のチェックリスト、賞味期限等に取り組むことを期待する。

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、言葉ずかいは是非についての内部研修も試み支援につなげている。	一人ひとりを「〇〇さん」と苗字で呼び同じ苗字の方には、お名前で呼んでいる。人格を尊重し言葉・態度等内部研修をし支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望とう表出し、自己決定できるよう働きかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、優先であることを念頭に置き、利用者様の希望に添えるよう努め、支援に向けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の尊厳を損なうことのないよう心掛けて支援に取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から見える所にその日のメニューを掲示している。バランスの良い食事を提供し、また多数の利用者様に下肢筋力低下が見られ、準備等の参加は安全を確保することから参加に至っていない現状です。	食事のメニューは、見える場所に掲示している。手作りの食事は、穏やかな雰囲気の中で提供できるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取、水分量は1日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態に応じた支援にとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため職員が関わりを持って対応、支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らしたいと排泄のパートナーを把握してトイレでの排泄ができるよう試みたりし、支援につなげている。	適切な個別指導を行い、時間を見計らってトイレ誘導し、トイレで排泄できるように行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や、及ぼす影響を理解している、飲食物の工夫や運動への働きかけ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ一人ひとりの希望に沿った入浴を心掛けている。週3回程度の入浴を実施している。	入浴は、週3回程度実施されている。入浴を拒む方には、時間を見計らってスタッフも変えて声かけし入浴支援をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や季節、その時々状況に応じて気持ちよく安眠できるよう心掛け支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の飲み忘れ、飲みすぎがないよう支援している。また職員は薬の目的や副作用等を理解している。誤薬のないよう注意を払い服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を送っていただきたいと職員は心掛けている、日々楽しみ事、気分転換等を模索しながら支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望にそい戸外でかけ事の支援はできているとは言えない、希望があれば叶えてあげたく、外出支援につなげたい。	一人ひとりのその日の希望にそって戸外に出かけることはなかなか難しいが、なるべく希望にそった外出支援に心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持ち使うという気持ちがある事ので大切さを理解しているが難しい場面もあり支援に至っていないのがげんじょうである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりを心掛けている生活感や季節感を、利用者、職員、共同作業で採りいれたり、居心地よく過ごせる工夫をしている。	居心地のよい空間づくりに心掛けている。雰囲気がよく、温かさが心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でひとりになれたり、気の合った利用者様同士過ごせる居場所づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、泊りの部屋は居心地よい工夫がされている、また本人が使い慣れたものや好みものを活かし居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室や泊りの部屋は、本人の使い慣れたものや好みものを活かし居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーを活かした安全な環境づくりがされている、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫がされている。		